

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	PC①/PC②/PC③/PC④		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- 3 (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- 4 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- 5 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(相談)
- 6 (1)社会1
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 7 (1)社会2
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 8 (1)社会3
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 9 (1)社会4
(2)スタディスキル(受講)
- 10 (1)数学1
(2)スタディスキル(理解と表現1)
- 11 (1)数学2
(2)スタディスキル(理解と表現2)
- 12 (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- 13 (1)数学4
(2)キャンパスライフ(学生相談)
- 14 (1)確認試験1
(2)スタディスキル(理解と表現3)
- 15 (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学習50% (平常点70% eラーニング30%)

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 II	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)今学期の目標を設定する。
- 2 (1)言語2
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 3 (1)言語3
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 4 (1)言語4
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 5 (1)社会1
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 6 (1)社会2
(2)レポート作成:参考文献様式の復習。
- 7 (1)社会3
(2)レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
- 8 (1)社会4
(2)レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
- 9 (1)数学1
(2)レポート作成:要約をする。
- 10 (1)数学2
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 11 (1)数学3
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。

- 12 (1)数学4
(2)Kaisei English and Tourism Festival
- 13 (1)確認試験1
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 14 (1)確認試験2
(2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
- 15 (1)確認試験3
(2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)オリエンテーション
- 2 (1)言語2
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 3 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 4 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 5 (1)社会1
(2)スタディスキル(教学カルテ入力について)
- 6 (1)社会2
(2)キャリアデザイン(社会意識1)
- 7 (1)社会3
(2)キャリアデザイン(社会意識2)
- 8 (1)社会4
(2)キャリアデザイン(社会意識3)
- 9 (1)数学1
(2)キャリアデザイン(社会意識4)
- 10 (1)数学2
(2)スタディスキル(リサーチ1)
- 11 (1)数学3
(2)スタディスキル(リサーチ2)
- 12 (1)数学4

- (2)スタディスキル(リサーチ3)
- 13 (1)確認試験1
(2)社会人への 歩(今後の学修について)
- 14 (1)確認試験2
(2)スタディスキル(リサーチ4)
- 15 (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学修50% (平常点60% eラーニング30% 教学カルテ10%)

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④	11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	必修	1			

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行し行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉を、グループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1 海星学とは
- 2 KAISEIパーソナリティについて
- 3 キャリアプログラム①「社会を知る」
- 4 キャリアプログラム②「社会で働く」
- 5 キャリアプログラム③「職種・業界」
- 6 キャリアプログラム④「学科の学びとキャリア」
- 7 ポートフォリオ(学生カルテ)①とeラーニング
- 8 ポートフォリオ(学生カルテ)②とeラーニング
- 9 海星を学ぶ① [K:思いやり]
- 10 海星を学ぶ② [S:奉仕]
- 11 海星を学ぶ③ [I:国際性]
- 12 海星を学ぶ④ [A:自律]
- 13 海星を学ぶ⑤ [E:倫理]
- 14 海星を学ぶ⑥ [I:知性]
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40% eラーニング30%

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp・saeki@kaiei.ac.jp・sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

乳幼児教育に関する様々な理論の学習や教育実習他の経験を活かし、自分が興味関心をもったことについて、新たな知識と確かな情報を得る。適切な先行文献を選定することを通して、要約し考察する力と、記録する力、伝える力などの表現力を高める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題文献・資料を講読し、発表する。ディスカッションを経て新たな課題を見出す。考察力や伝える力、記録する力を高める。この方法として、栽培活動や教材制作を行い、ドキュメンテーションを作成し、学習成果を検証する。そして、自分の研究したい内容や方向性に見直しをもつようとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 自然体験に関する課題文献・資料の講読
- 3 文化体験に関する課題文献・資料の講読
- 4 ドキュメンテーションとポートフォリオ、ラーニング・ストーリーについて
- 5 特別支援教育に関する課題文献・資料の講読
- 6 防災教育に関する課題文献・資料の講読
- 7 認定こども園、小規模保育所に関する課題文献・資料の講読
- 8 食育に関する課題文献・資料の講読
- 9 乳幼児教育におけるESDとSDGs
- 10 課題の調査と発表①
- 11 課題の調査と発表②
- 12 課題の調査と発表③
- 13 課題の調査と発表④
- 14 文献検索の方法と実際について
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。学生が作成した資料にもとづく発表、ディスカッションを通して、多面的な理解や気づき、新たな課題を得られるようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題レポートやリフレクションシート他の提出を毎回求め、授業内にフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

自ら進んで課題研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学論文の研究論文を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 全員で共通の文献講読 1
- 3 全員で共通の文献講読 2
- 4 全員で共通の文献講読 3
- 5 共同研究のためのリサーチの準備
- 6 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 7 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 8 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 9 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 10 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 11 リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
- 12 共同研究の発表の準備
- 13 共同研究の発表の準備
- 14 共同研究の発表の準備
- 15 全体の振り返りと、個人のテーマの評価

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身に付ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みと課題の提出状況を評価する。

欠席について

回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎回の授業で提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員、学校心理士SV、臨床心理士			

授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

授業計画

- 1 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
- 2 各自の興味関心を聞き合う。
- 3 各自の興味関心の集団討議
- 4 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
- 5 研究計画・文献・資料に関する指導1
- 6 研究計画・文献・資料に関する指導2
- 7 研究計画・文献・資料に関する指導3
- 8 研究テーマの検討と討議1
- 9 研究テーマの検討と討議2
- 10 研究テーマの検討と討議3
- 11 各自の研究進捗報告会1
- 12 各自の研究進捗報告会2
- 13 各自の研究進捗報告会3
- 14 卒業研究に向けての質問会
- 15 まとめ

授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立て、演習Ⅲへの見通しをもつ。

授業計画

- 1 演習Ⅱの進め方について
- 2 質問紙法について
- 3 非構造的面接法について
- 4 概念抽出までの手続き
- 5 研究活動における倫理
- 6 実地研修①
- 7 実地研修②
- 8 実地研修のまとめ③
- 9 ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
- 10 研究マップ発表
- 11 仮研究テーマでのミニ論文発表①
- 12 仮研究テーマでのミニ論文発表②
- 13 仮研究テーマでのミニ論文発表③
- 14 研究計画、研究方法の検討
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレーベル館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して研究テーマに迫るため、的確なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

授業計画

- 1 演習Ⅲの進め方について
- 2 卒業研究・論文のまとめ方について
- 3 研究対象と調査期間について
- 4 研究方法と分析方法について
- 5 調査の進捗報告と討議①
- 6 調査の進捗報告と討議②
- 7 各自の先行文献調査のまとめ①
- 8 各自の先行文献調査のまとめ②
- 9 「問題と目的」の発表・討議①
- 10 「問題と目的」の発表・討議②
- 11 「研究方法」の発表・討議①
- 12 「研究方法」の発表・討議②
- 13 仮説と今後の見直しについて発表・調整①
- 14 仮説と今後の見直しについて発表・調整②
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への助言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 リサーチ1・発表・ディスカッション1
- 3 リサーチ2
- 4 リサーチ3
- 5 リサーチ4
- 6 各自の研究の問題と目的について設定・発表
- 7 各自の研究の研究方法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
- 8 進行報告2
- 9 進行報告3
- 10 調査報告1
- 11 調査報告2
- 12 調査報告3
- 13 結果のまとめ方について1
- 14 結果のまとめ方について2
- 15 結果のまとめ方について3

授業の方法

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

毎週の課題の提出状況と演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題の提出は毎週とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

- 1 分析結果報告・仮説の検証①
- 2 分析結果報告・仮説の検証②
- 3 分析結果と考察①
- 4 分析結果と考察②
- 5 分析結果と考察③
- 6 分析結果と考察④
- 7 分析結果と考察⑤
- 8 研究のまとめと総合考察①
- 9 研究のまとめと総合考察②
- 10 今後の課題について
- 11 分析結果 覧表の作成
- 12 卒業研究の校正①
- 13 卒業研究の校正②
- 14 最終報告とまとめ①
- 15 まとめ②を行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力する等して、自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

- 1 分析結果報告・仮説の検証①
- 2 分析結果報告・仮説の検証②
- 3 分析結果と考察①
- 4 分析結果と考察②
- 5 分析結果と考察③
- 6 分析結果と考察④
- 7 分析結果と考察⑤
- 8 研究のまとめと総合考察①
- 9 研究のまとめと総合考察②
- 10 今後の課題について
- 11 分析結果 覧表の作成
- 12 卒業研究の校正①
- 13 卒業研究の校正②
- 14 最終報告と討議
- 15 まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意欲と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目 < こども関連科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）社会福祉士			

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に体験活動に参加することを目標とする。また体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践などを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」「ボランティアの意義と課題」など、授業を通じて考えていく。まず基本理念や歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い体験活動に参加する。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていく。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ボランティアの基本理念
- 3 ボランティアの歴史
- 4 人と未来防災センター及びJICA関西での実習(土曜日)
- 5 災害とボランティア活動(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
- 6 社会福祉施設等でのボランティア活動
- 7 地域でのボランティア活動
- 8 国際社会とボランティア活動
- 9 環境問題とボランティア活動
- 10 ボランティア活動の体験(1)
- 11 ボランティア活動の体験(2)
- 12 体験活動の記録化と振り返り
- 13 グループ討議(KJ法による)
- 14 プレゼンテーション(体験活動の成果)
- 15 まとめとしての講義の後、ボランティア体験活動のレポート提出を求める

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションや視聴覚教材を取り入れていく。さらにボランティア活動を体験することが重要であり事前学習や事後学習を通じて準備していく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

2日間のボランティア活動記録とレポートによる。また授業への積極的な参加を求めます。

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

2日間のボランティア体験活動への参加が必要である。体験の実践にあたり個別相談や個別指導を第9回～第11回の講義内で行う。

教員連絡先

nishihashi@kaisei.ac.jp

関連科目 < こども関連科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②		17509	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達の過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐむ指導の在り方を理解することを旨とする。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートやポートフォリオを作成する。情報機器を活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め、実践力を養うようにする。作品の一部は地域や学内の子育て支援活動にいかす。

授業計画

- 1 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
- 2 図画工作科の内容と幼稚園からの接続、中学校への接続
- 3 造形的な視点 色と形の出会い
- 4 造形遊びをする活動 並べたり積んだりして
- 5 絵に表す活動 パスを使って
- 6 絵に表す活動 筆やペンを使って
- 7 立体に表す活動 土粘土を使って
- 8 立体に表す活動 教材用粘土を使って
- 9 工作に表す活動 伝統文化と関連して
- 10 工作に表す活動 様々な用具を扱いながら
- 11 身近な材料を使った表現 リサイクルの視点で
- 12 生活に役立つものを作る 防災の視点で
- 13 生活を楽しく豊かにする鑑賞の活動
- 14 情報機器を活用した活動
- 15 外部資源の活用と連携 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①実習課題の構想シート、制作物、ポートフォリオの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

留意事項

実習・演習は、学習課題により個人もしくは小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	①/②		17601	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

乳幼児の造形表現遊びを指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力を高める。教材や用具の扱い方の基礎基本を理解し環境を構成する力や作品を読み取る力、保育指導案を立案し実践する力を身に付ける。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

造形表現における乳幼児の発達や特徴について詳述する。造形表現で扱う材料用具の基礎基本事項と技法について演習を行い、鑑賞活動を通して感性をより高める。教材研究を継続して行い、保育指導案作成のポイントを学び、実践力を身に付ける。造形表現に使う材料を自ら収集し、それらを使って模擬保育を行う。授業での制作物の一部は地域や学内の子育ての支援活動に活かす。

授業計画

- 1 領域「表現」のねらいと内容、乳幼児の造形表現の意義について
- 2 造形表現における乳幼児の発達と他領域との関連
- 3 情報機器、視聴覚教材の活用法及び保育指導案の構成と展開
- 4 地域や美術館との連携、小学校教育への接続
- 5 園行事やごっこ遊び、お話の世界と造形表現
- 6 様々な技法や身近な材料、自然物を使った楽しい造形表現
- 7 模擬保育と評価及び反省
- 8 模擬保育の改善とまとめ

授業の方法

講義と実習を中心とする。学修のまとめとして模擬保育を行い学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ① 製作遊びの作品提出、鑑賞レポート、シミュレーションシート、収集した教材の提出、保育指導案の作成と実践を課題とする。講義においてフィードバックを行う。

② 平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

樋口 成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

身近な素材や自然に触れる経験を積むように努めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針について基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。
3. 現代における子育て支援について理解を深める。

授業計画

- 1 保育原理を学ぶ意義について
- 2 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
- 3 保育に関する諸法令からみる保育の原理
- 4 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理（1）
- 5 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理（2）
- 6 養護と教育の一体化について
- 7 保育実践の基本的構造について
- 8 多様な保育内容とその方法
- 9 子育て支援について
- 10 西洋と日本の保育の創成期
- 11 西洋の保育実践の発展過程
- 12 日本の保育実践の発展過程
- 13 児童中心主義の保育を探る
- 14 保育者の在り方を考える
- 15 これからの保育にむけて
まとめを行ってから試験を行う。

授業の方法

講義を主とするが、グルーブトークを取り入れる。毎回、前週の講義の振り返りを行い、確認テストを適宜行うことで知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%確認小テスト20%定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

佐伯 弥・金瑛珠「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (小)			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭	中学校教頭	小学校校長	

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
- 2 教員の服務と義務
- 3 学校制度の変遷と教員養成
- 4 公教育の目的と教員の役割
- 5 学校の組織と運営における教員の役割
- 6 教員の研修の意義と制度
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教科と教科外の指導
- 9 教師力と教員の評価
- 10 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
- 11 地域社会との連携における教員の役割
- 12 教員の人権感覚
- 13 チーム学校の在り方と危機管理
- 14 教職とボランティア活動の関係
- 15 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回、授業のレジメや資料を整理保存し、最後に講義メモを添えて提出してもらいます。

教員連絡先

matsui@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (幼保)			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や、今後の教員に求められる資質能力について学び自らの適性を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育や就学前教育の現状について詳述し、調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員・保育士の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師・保育者像を明確にもつようにする。

授業計画

- 1 「教職概論」科目の特性と概要
- 2 教職の意義
- 3 幼稚園教育と小学校教育
- 4 教員の歴史、女性と教職
- 5 学校の組織と運営
- 6 教員の職務内容
- 7 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
- 8 学び続ける教員へ（教員のライフステージと研修制度）
- 9 国際化・情報化と教員の役割
- 10 学校における社会体験とキャリア教育
- 11 様々な問題行動とカウンセリングマインド
- 12 特別な支援を要する幼児・児童への対応
- 13 学校（園）・地域・家庭の連携と役割
- 14 チーム学校の意義と実際について
- 15 今後の教員に求められる資質・能力（専門職としての教員）まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫（編）『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年（株）萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ 文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員・保育士を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）の育成を目指す。

授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

- 1 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
- 2 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
- 3 乳幼児期の発達と領域「人間関係」①
- 4 乳幼児期の発達と領域「人間関係」②
- 5 子どもと保育者の関わり①
- 6 子どもと保育者の関わり②
- 7 遊びのなかのひととの関わり①
課題レポートを提出
- 8 遊びのなかのひととの関わり②
- 9 生活を通して育つひととの関わり①
- 10 生活を通して育つひととの関わり②
- 11 個と集団の育ち①
- 12 個と集団の育ち②
- 13 ひととの関わりを見る視点
自己の発達とひととの関わり
- 14 現代の保育の課題と領域「人間関係」

15 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための知識を習得する。
まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。
グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
 - ②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- 平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岩立京子（編者代表）、無藤隆（監修）「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」萌文書林

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達を理解し、生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言語環境を整え、乳幼児の豊かな言葉と言語活動を育む保育を学ぶ。

授業計画

- 1 領域「言葉」について
- 2 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
- 3 乳児期の発達と言葉の獲得
- 4 乳児期の言葉の発達を促す保育と教材
- 5 満1歳以上満3歳未満児の発達と言葉の獲得
- 6 満1歳以上満3歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
- 7 満3歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
- 8 満3歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
- 9 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
- 10 豊かな言葉を育む児童文化（歌、手遊び、言葉遊び）（情報機器及び教材の活用を含む）
- 11 豊かな言葉を育む児童文化（絵本や紙芝居）
- 12 豊かな言葉を育む児童文化（人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等）
- 13 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び（情報機器及び教材の活用を含む）
- 14 模擬保育と振り返り
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、言葉を育む保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。知識の定着を図

るため、小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①絵本データシートや、自修シートの提出を2回、模擬保育（教材の作成を含む）を課題とする。講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆、湯川秀樹【監修】太田光洋【編著】『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第三版』2018年（株）同文書院

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

保育の基礎技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本、幼児用テレビ番組などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示やおはなし会などに関心をもつこと。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。